

赤い靴通信 415号

旧制中学の同期に講談師・一竜齋貞丈の息子がいました。やがて親の後を継いで親の名前で活躍していました。またクラスメイトに和田哲夫君と和田一夫君がいて間違いないので、成績優秀な方を和田さん、いづれにこにこしている方を和田ちゃんと呼び区別していました。和田ちゃんの方はお父さんが熱海で八百屋をしていたのですが、高級野菜を専門に扱っていてかなり有名でした。息子を立派な商人にしたいと横浜商業学校（Y校）に入れて、横浜の親類の家から通わせていました。和田さんは横浜市立大学を卒業し、日枝小学校、立野小学校など先生の道に進んだのです。

戦後のある日のニュースで熱海に大火事があり、和田ちゃんの家が焼けてしまったのです。その後仮営業所が出来たので見に来てよと言われ数人で出かけて行きました。2階建ての細長い家で野菜は入り口に少しあるだけでその他1階には食料品が奥まで小分けにして手に取り易いように並べてありました。2階にはお菓子から台所用用品、電気関係から鍋釜、釘などの大工道具まで生活用品が並んでいるのです。そしてすべての価格が安いのです。正にアメリカでスタートしたスーパーマーケットの小規模版です。和田ちゃんはいぶ前前から考えていて、火事のあと私と同じように渡米して視察してきたのです。先代がつけた屋号「八百半」をつけ近隣の市や町に次から次へと「八百半」店が出来たのです。そのスーパー店には全国から見学者が絶えなかつたと言います。そして、ニューヨークにも八百半店は進出したのです。

ある日、飛行学校の仲間が家族中でブラジルに渡った今雪君という漆工芸作家の友人から手紙が来て「八百半」がサンパウロに大きなスーパーをだしたということです。社長が友達だと言っていたよな、紹介を頼むということでした。今安いの漆の置物と最近実業化した「お線香」を売りたいということなので、早速和田ちゃんに連絡するとすぐ店長に連絡するから店に行ってくれと言ったことになったのです。やがて今雪君から連絡があってサンパウロの日系人でスーパーはごった返しているよ、ありがたうと返事が来た。また、近く友達の後藤君が日本に行くから会ってくれとも書いてあった。やがて後藤君が訪ねてきた。まだ青年でブラジルに渡って2年目だという。用件は何か日本のものでブラジルで当たる商品が無いかと尋ねてきました。

後藤君の話によると今雪君は漆工芸作家なので作品が高く売れなくて困っていたところ、お線香を作っているおじいさんから身体を壊して作れないのであとを引き受けてくれと頼まれたそう。原料を板状にして定規を置いてナイフで切り、乾かすと波状になってしまふので、それを折れないようにそとと紙にくるむという原始的な製法なのだが、サンパウロには創価学会が多く、彼等の必需品になっていて、日本からの輸入が禁止になっていて、売れていると言っていることだ。その後今雪君はスパゲッティを抽出する盤を思い出し、お線香が均等に出てくる盤を作り、日影で乾かすことにより曲がりが出なくなつた。買い手が日系人なので名前を「芳線香（ホウセンコウ）」として日本的なパッケージで売り出したところ大評判になった。なおH O S E N K O はポルトガル語でH O は（オ）と発音するので「お線香」でいいと自慢していると言



元町ローゼス「中区音楽遊々」稽古風景



冬のミュージカル「忍 SHINOBI」稽古始動！

今後のスケジュール

- ★12月18日(土)
「～中区音楽遊々～」
場所：関内ホール・小ホール
時間：15:30～17:30
出演：赤い靴ジュニアコーラス
ATF・青隊・赤隊Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
横浜☆男声合唱団
元町ローゼス
元町いぶし銀ゴスペル
横浜シニアゴスペル・シーバーズ
横浜市民こどもミュージカルキッズ
「宮澤賢治作品」琵琶・馬頭琴演奏
室井三紀・美炎
音楽劇「赤い靴の絵本」
原作 松永春
音楽劇回まっかなホント
入場料：一般 1,200円
高校生以下 800円
- ★12月24日(金)・25日(土)
クリスマスキャロル
場所：ヨコハマ グランド インター
コンチネンタル ホテル 1階
アトリウム
出演：赤い靴ジュニアコーラス
時間：各日 18:00・18:15
- ★2022年
2月12日(土)・13日(日)
横浜市民ミュージカル
大船撮影所誕生 85周年記念
「忍 SHINOBI」
場所：関内ホール・小ホール
2/12 1・2回目公演
2/13 3・4回目公演
全4回公演

2021・10・31 団長 松永 春

っていました。それから暫くして今雪君から来た手紙にはお線香関係の工場を建て、いい機械を入れて南米全部相手にお線香を売っている。近く日本に行くからまた会おうと言ってきた。一方訪ねてきた後藤君はお茶を飲みながら、私がビニール紐で商品を縛っているのを見て「それは何ですか？」と聞くので、ビニール紐だが雨にも強いし手では切れないし、価格も安いと言うと実はブラジルの農家では豆とか蔓ものを栽培する時に植物の細い枝を3本使い上ととめ、その時に植物を乾かして細く切った紐で結わくのですが、その紐をつくるのに大変手がかるそう。このビニール紐を見て「これだ！」と大きい声を出したのだ。「まだブラジルでは見たこともない。是非メーカーが問屋を紹介してくれ。」と言う。同じ飛行学校の友人でビニール製品を沢山扱っている方の情報で問屋を紹介してくれることになった。「是非来てくれ」と言うことで翌日行ったのだが、電話で松永さん大変だ。すっかり気に入らないうちにゆるゆる種類の紐を輸出したいと言ってくれたという。それから2年くらいたって今雪君から手紙が来て「あれから後藤君はビニール製品を扱う業者になり、全ブラジルの農家が使う紐・ビニールシートなどビニール製品は南米一の売り上げになったというのだ。後藤君からも長い手紙が来て松永さんのおかげで今大きな会社の社長です、ありがたうございました。恩は忘れないと感謝されましたが、発想とやる気で外国で成功した良い例ですね。和田ちゃんの話に戻りますが、発想とやる気で外国で成功した良い例で作った上海店が中国の法律で閉店できず倒産してしまったのです。和田ちゃんとは数回会ったが自分にはスーパーで世界一になりたかった。でも今考えると世界でたった一つの真似の出来ないスーパーにすれば良かったと言っていた。その後和田ちゃんは多くの経験から得た経営学を若い人たちに伝える事に尽力しました。

さて、新型コロナウイルス感染者数が激減し街には賑わいが戻ってきましたね。赤い靴記念文化事業団では関内ホールと共に、音楽活動の灯を消さないように「～横浜・元町から発信するエンターテイメント！～中区音楽遊々」という新しい企画をし、各グループが熱心な稽古をしています。また恒例の冬のミュージカルでも稽古や本番の形態を大幅に変えながら新しい方法でスタートしました。ぜひ新しい試みを始めたプロセスと本番を楽しみにしてください。

※「忍 SHINOBI」の詳細は後日